

記憶に残る啓発用教材の開発について

○野々川^{のの}真^ま美^み子^こ 伊藤裕子 上田早穂 栗本高志
(生活衛生センター)

1. 目的

生活衛生センターでは、ハチや蚊、クモ類など人の健康を害する恐れのある昆虫等について被害にあわないための正しい知識を市民に伝えることを目的として、平成 25 年度より主に市内の幼稚園、小学校等で児童を対象に衛生害虫出張講座を実施している。実施した施設の職員からは『ためになった』という感想がしばしば寄せられるが、講座を開催することによる啓発効果の評価は行ってこなかった。

そこで今回、出張講座を行った小学校の児童を対象に事業実施前後でアンケート調査を行い、衛生害虫出張講座の啓発効果を計ることとした。また、啓発用教材の構成による効果の違いを検証したので報告する。

2. 衛生害虫出張講座の概要

衛生害虫出張講座は『衛生害虫に関する解説を聞く』『展示物を見学する』の 2 部構成で、それぞれ 15～30 分かけて行った。

(1) 衛生害虫に関する解説

パネルシアターセットを用いて、校庭や家庭でよく見かける害虫について、生態や被害防止の方法などを解説した。題材は次の 5 つの中から選んでいただいた。

ハチ、蚊、ケムシ、セアカゴケグモ、ゴキブリ

(2) 展示物

解説を行わない衛生害虫についても害があることやその生態が学べるよう、生きた虫やハチの巣、標本箱、樹脂標本、クイズ形式のパネル、顕微鏡などの展示コーナーを設置した。

3. アンケート調査の方法

対象：平成 26 年 5 月から平成 27 年 2 月までに衛生害虫出張講座を行った小学校のうち 3 校 4 学年の児童 346 名。

事業実施前後に衛生害虫に関する問題（前後で同じ問題）を解答させた。問題はハチ 7 問、蚊 2 問、クモ 1 問、ケムシ 1 問の計 11 問とした。

4. 結果

(1) 衛生害虫に関する解説の効果

表 1 のアンケートの結果のうち、枠を塗って示したものが解説を行った衛生害虫に関する問題の正解率である。解説を行った題材については各校 20%以上正解率が上昇しており、解説を聞くことによって衛生害虫に対する理解が深まっていることが分かった。

(2) 展示の効果

解説を行っていない題材については展示のみで啓発を行うことになる。題材ごとに展示のみで啓発を行った生徒を対象とした正解者の割合を表1最下段に示した。セアカゴケグモに関しては事業実施後の平均正解率は72.5%と実施前より18.4%上昇し啓発効果を感じられた。一方、セアカゴケグモ以外のテーマでは、実施前後でハチ4.1%、ケムシ2.5%蚊-0.8%の変化にとどまり、セアカゴケグモのように明らかな効果は感じられなかった。

		人数	ハチ	蚊	ケムシ	*クモ
A校	前	110人	41.8	38.2	20.9	46.4
	後	110人	45.1	44.1	88.2	66.4
B校①	前	100人	35.6	45	22	42
	後	102人	65.3	50.5	20.6	69.6
B校②	前	85人	47.7	53	27.1	63.5
	後	84人	53.1	76.2	20.2	78.6
C校	前	49人	52.8	76.5	38.8	79.6
	後	46人	72.1	41.3	69.6	82.6
展示のみ正解率の平均	前		44.4	48.1	27.4	54.1
	後		48.5	47.3	29.9	72.5

表1. 事業実施前後のアンケート結果(*クモはセアカゴケグモ) 各題材ごとの平均の正解率(%)を示した。色つきは解説した題材の正解率

	ハチ	蚊	ケムシ	*クモ
A校	標本箱3、巣(小)、パネルクイズ	標本箱2	標本箱2、パネル	標本箱1
B校	標本箱3、巣(小)、パネルクイズ	標本箱1	標本箱1、パネル	標本箱1
C校	標本箱2、巣(大)、パネルクイズ	標本箱1	標本箱1、パネル	標本箱1

表2. 展示に用いた啓発資材

5. 考察およびまとめ

多くの題材において展示のみの啓発効果は高くない一方で、セアカゴケグモは展示のみであっても期待以上の効果を感じることができた。セアカゴケグモの資材数と他の題材の資材数とを比べると、セアカゴケグモの方がむしろ資材数は少ない(表2)。しかしながら内容を比べると、セアカゴケグモ以外は1つの標本箱が複数の種類の昆虫(例えば家の周りのおじゃま虫として、ハチ・蚊・ケムシが標本箱に入っている等)で構成されているのに対し、セアカゴケグモの標本箱はセアカゴケグモのみで構成している。一箱にたくさんの資材がある方が子どもの興味を引きやすく複数の題材を一度に啓発できると考え、様々なものを1つの標本箱に盛り込んでいたが、1種類にした方がインパクトが大きく、本当に言いたいこと1つを伝えるには効果的であることがアンケート調査から明らかとなった。

今回のアンケートは題材によって問題数に差があるが、どれも講座の開催にあたり最低限伝えたいことばかりである。解説のように詳しい内容を伝えることができない展示では最低限伝えたいことのみを搭載し印象に残すことを優先した方が高い啓発効果が期待できる。現在、クイズ形式のパネルや種類ごとの標本箱、実物のハチの巣を触らせる等、アンケートの結果を参考にした資材を用いて啓発を行い同様のアンケートで効果を検証しているところである。

当センターでの啓発事業は対象が幼・保育園児から大人まで幅が広い。啓発対象者が誰でも印象に残る教材の方が高い啓発効果が得られると考えるので、本結果を踏まえ意義のある啓発活動を行いたいと思う。